

Case1 総合職（大卒程度）



小学生時代にファミコンの「三国志」にハマって以来、歴史とゲームを愛好しています。最近、息子と大河ドラマを観て歴史について語り合う将来を夢見て、一緒に歴史ゲームを楽しんでいます。

吉田 一路

庶務部人事課長

平成12年4月 衆議院事務局採用
調査局地方行政調査室
(平成13年1月～ 調査局総務調査室)
平成15年8月 憲法調査会事務局
平成17年9月 委員部各課
平成19年1月 国際部渉外課
平成19年7月 庶務部人事課付
平成20年7月 外務省在中国日本国大使館へ出向
平成22年8月 庶務部人事課
平成24年10月 委員部各課
令和元年7月 委員部第六課調整主幹
令和2年7月 庶務部会計課監査主幹
令和3年1月 庶務部文書課総務主幹
(兼)庶務部文書課新型コロナウイルス感染症対策室長
令和3年7月 委員部総務課長
令和4年1月 委員部調査課長
(兼)委員部第六課長(兼)委員部第七課長
令和5年1月 委員部調査課長
令和5年7月 庶務部人事課長

入局

就職氷河期真っ只中の平成12年に衆議院事務局に入局。きっかけは大学の就活室に置いてあった採用パンフレット。入局直後、小淵総理緊急入院のニュースに騒然となる職場を見て、永田町の世界に身を置いたことを実感する。

調査局地方行政調査室（現総務調査室）

最初の配属先は地方行政調査室。学生時代全く触れたことのない地方行政の担当に。先輩調査員の指導を受けながら専門書や関連資料を読み込む日々。調査室では、新人もベテランも同じ「調査員」として資料作成や様々な調査依頼に対応する。議員や秘書はその道の専門家である調査員として接してくるため、「早く一人前にならない」と焦りを感じながら過ごす。

憲法調査会事務局（現憲法審査会事務局）

入局から3年、初の異動先は憲法調査会事務局。調査業務を担当。在任中は「衆憲資」と呼ばれる参考資料の作成と最終報告書の取りまとめ作業に従事。法律の専門家である法制局出身の同僚に囲まれ、法的思考力や論理的思考力の重要性を学ぶ。700頁余りある最終報告書が完成した際は感慨ひとしお。

委員部（3番手～2番手）

平成17年夏、委員部に異動。初の運営部門。慣れないライン型業務に戸惑いつつも、議員が論戦を交わす最前線での勤務に、緊張感と高揚感が交錯する新人時代の感覚を思い出す。3番手時代は次第書作成や答弁者調整等の業務に従事。当時の次第書は手書きで作成しており、悪筆な私はとても苦労した。先輩からは「字は心。相手に伝えたいという気持ちがあれば、きちんと読んでもらえる」と励まされた(?)

国際部渉外課

在京大使館のスタッフと英語でやり取りする機会が多く、語学力の必要性を痛感。スリランカ議会議長訪日時に地方視察に随行し、普段非公開の場所を見聞する貴重な機会を得る。

庶務部人事課付（外務省中国課）

平成19年夏から1年間、人事課に籍を置いたまま、実際は外務省中国課で勤務し、日中交流を担当。日中国交正常化35周年の節目の年で業務は多忙を極めた。タクシー帰りが当たり前で、超過勤務手当が本給を超えるという経験も。衆議院事務局の職場環境がいかに恵まれていたか痛感する。

出向（外務省在中国日本国大使館）

平成20年夏から2年間、北京の日本国大使館に出向。政治部に配属され日中政治を担当。事務局初の出向ポストで前任がおらず、自分の居場所を一から作り上げる苦労があった。在任中、北京五輪など国際行事が多くあり、訪中する政治家のアテンドを多数行う。初の海外生活に外交官としての業務。これまでの常識が通用しない場面も多く、自身の価値観を見つめ直す機会にも。

庶務部人事課

帰国後、人事課法規係に配属。課長補佐として初めて係の責任者である「キャップ」になる。法規係では職員法規と職員倫理を主に担当。人事当局側として臨んだ組合交渉、公務員倫理の研修講師、職員法規改正の条文作成など初めて尽くしの業務で新鮮だった。キャップになり組織を代表して外部とやり取りする機会が増え、職責の重みを自覚するようになる。

委員部（キャップ）

二度目の委員部勤務。今回はキャップとして委員会運営に責任を負う立場。与野党が対峙する委員会は予定調和の議事ばかりではない。予期せぬ事態を想定し事前に備える危機察知能力と事態が発生した場合に冷静に対処する危機管理能力の双方が求められ、会議中は常に緊張を強いられる。だが、難しい委員会を無事やり終えた時に感じる心地よい疲労感は何ものにも代え難い。多くの委員会を担当したが、TPP法案やIR法案など大型法案が集中した内閣委員会時代、総理以下全閣僚が出席する予算委員会時代が印象深い。

管理職昇任

令和元年夏、管理職に昇任。プレイヤーからマネージャーへと立場が変化していく中で、内部署の業務完遂のために果たすべき役割を模索し実践する日々。未経験部署での勤務や新設部署の立ち上げなど挑戦しがいのある仕事にも恵まれ、まだまだ成長させてもらっている。

受験生へのメッセージ

衆議院事務局と聞いて、国会という狭い世界の組織というイメージを持たれる方もいるかもしれませんが、私のキャリアパスからも分かるように、実際には調査、運営、渉外など多彩な業務、永田町、霞が関、海外と様々なフィールドでの勤務と非常に多様性に富んだ職場です。仕事に求めるものは人それぞれ異なりますが、衆議院事務局にはその多くの思いに応えられる懐の深さがあります。「国会で働くのも面白そう」、そんな皆さんの志望をお待ちしています。

キャリアパス — 職員の歩み —

Case2 一般職（大卒程度）



深谷 陵子

経済産業調査室首席調査員

平成5年4月 衆議院事務局採用
庶務部人事課
平成6年12月 渉外部国際会議課
(平成9年7月～ 国際部国際会議課)
平成10年7月 調査局予算調査室
平成13年4月 環境省へ出向
平成15年7月 庶務部人事課付
平成15年8月 議事部議案課
平成17年9月 議事部議事課
平成21年8月 調査局決算行政監視調査室
令和元年7月 調査局予算調査室
令和3年7月 調査局経済産業調査室次席調査員
令和6年7月 調査局経済産業調査室首席調査員

劇団四季のミュージカルを観に行くのが大好きです。特にお気に入り「ライオンキング」でこれまでに5回は行っています。ストーリーは分かっているはずなのに、毎回同じところで感動して涙しています。

調査局

早いもので衆議院事務局職員となり30年が経過しましたが、その半分以上は調査業務に携わっており、予算、決算行政監視、経済産業の3調査室を経験してきました。現在の所属である経済産業調査室の所管は中小企業政策、通商貿易・経済協力、エネルギー政策等多岐にわたっており、国会の開会・閉会を問わず、日常的に議員から多種多様な調査依頼が舞い込みます。近年、複数の省庁に広くまたがる政策が多いため、依頼内容についても他の調査室の所管と重なることから、他室に協力を求め役割分担しながら対応するケースが頻繁にあります。この調整作業に苦勞することも少なからずありますが、質の高い回答を作成するためには必要な作業となります。調査局は議員へのサービス部門であり、どれだけ的確に相手のニーズに応えられるかが調査員に求められる能力であると思います。

出向（環境省）

係長時代に環境省へ出向し、国内や外国産の希少野生動植物種の保全等に関する野生生物行政等に携わり、環境大臣の許可に関する業務等を経験しました。例を挙げると、動物園にいる「トラ」は法律に基づき国際希少野生動植物種に認定されているため、環境大臣の許可がなけ

れば、A動物園からB動物園への譲渡等が勝手にはできません。両方の動物園から譲渡目的等の必要事項を記載した許可申請書の提出を受け、環境省で精査・確認し、譲渡を許可することになるのですが、許可と言っても動物と言えは犬や猫といったペットレベルの知識しかなかった私にとっては、全くの門外漢であり、最初の頃はとまどうことが多々ありました。立法機関である国会とはかなり異なる世界でしたが、様々な場面で色々な方に助けられ、いい経験になったと実感しています。

議事部

入局11年目に議案課に配属となり、「議員提出法律案」や議員が内閣へ文書で質問する「質問主意書」を受理する業務等を経験した後、本会議の運営事務を行う議事課に異動しました。議事課時代で印象に残っているのは、法律案の再議決が行われたことです。当時は衆参両院でそれぞれに多数派を占める会派が異なるいわゆる「ねじれ国会」であり、衆議院で法律案を可決しても、参議院で否決されてしまうケースが何回もありました。その場合、憲法の規定に基づき、再度衆議院の本会議において、出席議員の3分の2以上の多数で再び可決しなければ法律は成立しません。衆議院の多数派の議員構成はこの条件を満たしており、再議決自体は可能でしたが、否決された法律案の再議決について

は、昭和26年に1回行われたのみであり、どのように議事運営を行うのかについて課内で慎重に議論を重ねました。本会議で再議決が行われた翌日、「57年ぶり2例目の再議決」と大きく報道されていたのを覚えています。

受験生へのメッセージ

振り返ると、公務員志望であった私も「衆議院事務局」という就職先をよく知らず、具体的な仕事のイメージはあまり持っていませんでした。また、国会と言っても立法に関わる部署だけでなく、様々な部署があります。私自身、前述した業務の他に、人事課で職員の給与・法規に関わる業務や国際部で議員の国際会議派遣等に関する業務にも携わりました。学生の皆さんも幅広い業務を経験し、自分の特性を活かしてキャリアアップできる可能性があると思います。

また、女性職員数が多いのも衆議院事務局の特色の1つではないでしょうか。調査局について言えば、以前は各調査室の女性調査員は1名だけという部屋も多かったのですが、現在は女性が半数近くを占める部屋もあり、女性にも働きやすい環境になっています。

衆議院事務局のイメージは堅いと思っている学生の方も多いと思います。でもいったんその考えを振り払って、一歩足を踏み入れてください。来年の春に皆さんと働けることを楽しみにしています。

Case3 一般職（大卒程度）



飯嶋 正雄

委員部副部長議院運営課長事務取扱

平成4年4月 衆議院事務局採用
運輸委員会調査室
平成8年7月 委員部各課
平成13年7月 国土交通省へ出向
平成15年9月 調査局国土交通調査室
平成22年7月 委員部各課
平成26年12月 副議長秘書
平成29年10月 委員部各課
令和2年7月 委員部第七課調整主幹
令和3年7月 委員部第二課調整主幹
令和4年7月 委員部第二課長(兼)委員部第三課長
令和5年1月 委員部総務課長
令和6年7月 委員部副部長議院運営課長事務取扱

休日は「乗り鉄」として仲間と各地を旅行し、地元料理や景色を満喫していましたが、コロナ禍のなか新たな趣味としてメダカ飼育に目覚めました。睡蓮鉢の中で気持ちよさそうに泳ぐ姿に癒されています。

入局

平成4年に衆議院事務局に入局。採用パンフレットを見て、それまで知らなかった国会職員という仕事に興味を持ったのがきっかけ。

運輸委員会調査室（現国土交通調査室）

初めての職場で緊張の毎日。業界用語に戸惑いながら、審議会の答申や新聞、業界紙等で情報収集に努めた。メイン業務の一つである議員からの調査依頼対応は、上司の指示でデータや資料を揃えることが中心ではあったが、係員でも説明を任される機会があり、「よい資料をありがとう」と言っていただけときはとても嬉しく、やりがいを感じた。

委員部各課（4番手）

4番手と呼ばれる一番若手として、委員会関係文書の起案、委員連絡、答弁者の到着確認などの業務を任された。秘書等からの問合せに適切な回答ができず上司に対応してもらうなど、知識不足を痛感することが多く、先輩に疑問点を質問したり、同期と情報交換や法規・先例の勉強に励んだ。色々な委員会を経験するために部内異動も多く、複数の委員会を経験。刻々と変わる状況を担当全員で共有できる体制になっているため、チームで仕事をしている一体感を感じることができた。

出向（国土交通省）

専門工事業の振興や建設業の組合制度等を所

管する建設振興課に配属。厳しい競争のなかで新規事業等に取り組む事業者からの要望に対し、係長とはいえ担当者として直接対応を行うことも多く、今まで経験したことのない種類の責任の重さを実感する毎日だった。業界の課題を踏まえて検討を行っていたプロジェクトに予算がつき、実際に動き出すという一連の流れを経験でき、国会職員とは異なる貢献の仕方を実感した。

調査局国土交通調査室

出向時に経験した建設業のほか、道路、海事、観光などの分野を順次担当し、調査依頼対応や法案参考資料の作成、国内委員派遣の随行などの業務に励んだ。課長補佐となり担当分野の責任者を任され、議員に直接説明する機会が増えた。多忙な議員や秘書からは短時間でポイントを押さえた説明を求められるため、説明能力の向上にも努めた。

委員部各課（キャップ）

委員長、理事等の議員対応を行うキャップとして、委員長の指示のもと委員会運営事務を行った。議員や政府等、関係者の間で調整役を務めるためには相手の信頼を得ることが重要であり、常に誠実に対応することを心掛けた。理事懇談会等において法規や過去の事例等の説明を求められた際は、その場で適切な対応をしなくてはならず、前日に回答に窮する場面を夢に見るほどプレッシャーを感じることもあったが、国民生活にとって重要な法案の採決が瑕疵なく行われた時などには、役割を果たせたとい

う充実感を味わうことができた。

副議長秘書

国会の動き等を副議長に報告すること、本会議などに出席いただけるよう日程調整を行うこと、その他副議長の求めに応じて資料作成等を行うことや、宮中行事、海外派遣の随行が主な業務であった。在任中に、選挙制度、生前退位についての協議が行われ、副議長と共に行動することで、生の政治の動きを最前線で体験することができた。

委員部各課（キャップ）、各課調整主幹、第二課長(兼)第三課長

議院運営委員会の担当となり本会議運営についての知識を深めた後、委員部の管理職に。経験を踏まえた具体的なアドバイスができるよう努めるとともに、課員が能力を発揮できるよう、仕事をしやすい環境づくりを心掛けている。

受験生へのメッセージ

衆議院事務局には、会議運営、調査などの独特の業務に加え、行政府への出向や秘書業務まで多種多様な経験を積むチャンスがあります。異なる業務を経験しながら自分の適性に合った分野を見つけ、仕事へのやりがいを感じる事ができる、衆議院事務局はそのような職場であると思っています。このパンフレットをご覧いただき、行政府のように直接的ではありませんが、議員活動を通じて社会に貢献できる仕事に関心を持っていただければ幸いです。

キャリアパス — 職員の歩み —

Case4 一般職（高卒程度）



黒野 清高

委員部議院運営課委員専門職
(兼)懲罰委員会専門職

平成10年4月	衆議院事務局採用 管理部第一議員会館課
平成12年4月	国際部総務課
平成15年1月	委員部各課
平成23年9月	議事部請願課
平成25年7月	議事部議案課
平成28年7月	委員部各課

長距離ドライブが好きなので、連休があれば車で旅行をしています。目的地での観光よりも、その道中で、自然豊かな風景を見ながらドライブすることが楽しみであり、良いリフレッシュにもなっています。

入局

平成10年に衆議院事務局に入局し、管理部第一議員会館課に配属となりました。議員と接する機会も多く、最初はとにかく顔と名前を覚えるのに必死でした。初めての職場でしたが、上司や先輩に恵まれ、気持ちよく仕事をすることができました。

国際部総務課

議員の海外渡航に関する業務として、公用旅券の発給請求の受付や外務省に対して事務連絡等を行っていました。議員や同行する職員の公務が円滑に行えるようにするための業務です。議員団の海外派遣には、入念な打合せや多くの準備が必要となりますが、無事に帰国した時には、安堵する気持ちと共にやりがいを実感することができました。

委員部各課（4番手～2番手）

初めて会議運営部門に配属となりました。主に4番手として文書作成や連絡業務、3番手として答弁者調整、2番手として参考人対応や事務全体の統括等の幅広い業務を行いました。自分で法規・先例を勉強しつつも、知識や経験が不足しているため、疑問点は率直に上司や同僚に相談して、日々待ち受ける委員会業務に立ち向かっていました。委員部は、委員会毎に担当職員がおり、キャップから4番手までがチームとして業務を行っています。困難も多いですが、同じ目標に向かって仕事する楽しさを実感できる職場です。委員会の現場は、与野党の議員が論戦を交わす独特の緊張感があり、まさに政治

が動く現場でもあります。他の職場では体験しがたい貴重な経験を積むことができました。国会情勢によっては予期できない事態も生じますが、無事に委員会が終わった時には、何ものにも代え難い充実感や達成感があり本当に心地良いものでした。委員部は部内の異動も多く、たくさんの先輩・後輩や同僚と一緒に仕事ができる職場です。また、委員会運営には、現場の担当職員だけではなく、いろいろな側面からサポートする職員も多く、その両方を経験できたことはキャリアの中でも大きな財産となりました。

議事部請願課

意見書係として、主に地方公共団体の議会から衆議院に提出される意見書を受理し、委員会に参考送付することが業務でした。多くの地方議会から多種多様な意見書が提出されるので、幅広い知識が必要となります。第180回国会では5500件以上の意見書を受理しており、上司や同僚と協力して繁忙期を乗り切っていました。住民の代表である地方議会の意見や希望が一つひとつ意見書となっており、その責任の重さを感じる業務でした。

議事部議案課

議員提出議案係として、主に議員提出の法律案、決議案、質問主意書に関する業務を行いました。決議案の1つに内閣不信任決議案もあります。国会運営に直結する決議案でもあり、提出時期によっては迅速かつ正確に業務を行うことが求められます。また、質問主意書は、その答弁が閣議決定を経る重要なものであるため、

非常に人々の関心も高く、やりがいのある業務でもありました。

委員部各課（2番手～キャップ）

2度目の委員部では、委員会の運営に責任を負う立場となりました。これまでとは違ったプレッシャーを感じつつも、委員会担当のキャップとして強く意識することは、関係者と調整を行い、適正な手続を確保しながら、委員長を補佐することです。委員長から「ありがとう」と言っていただいた時には、本当に嬉しいものです。公正・円滑な委員会運営のために必要な努力は惜しみませんが、何より議員から信頼を得ることが重要であり、何事にも誠心誠意対応することを心掛けています。現場の最前線で重要な職責を担っている議員をサポートできる仕事でもあり、やりがいを感じないはずがありません。

受験生へのメッセージ

衆議院事務局と聞いて、どんな仕事をしているのかイメージが湧かないという方もいると思います。私も最初はそうでした。国会の中で、様々な形で議員をサポートできるところが、衆議院事務局の大きな魅力の1つです。また、就職をするにあたって、自分の長所を活かせる職場を見つけることが大切だと思います。私は、会議運営部門に長く在籍してきましたが、衆議院事務局にはほかにも多くの部署があり、多種多様な仕事を経験することができます。国会に関心を持っている皆さんと一緒に働くことができれば嬉しい限りです。

Case5 一般職（高卒程度）



金山 朝里

内閣調査室調査員

平成18年4月 衆議院事務局採用
委員会各課
平成24年10月 管理部厚生課
平成28年7月 庶務部人事課
平成29年8月 人事院へ出向
令和元年7月 調査局総務調査室
令和4年7月 庶務部人事課
令和6年4月 調査局内閣調査室

週に3~4回、マシンピラティスに通っています。フレックスタイム制を利用して、朝のレッスンを受講してから出勤する日も。運動後に飲むプロテインのアレンジレシピを考えるのも楽しみの1つです。

入局

平成18年に入局。専門学校で開かれた説明会で、「国政を支える」国会職員という仕事があると知り、興味を惹かれたことがきっかけ。

委員会各課

入局から2年間、各課の庶務担当として勤務した後、総務課公報係へ。衆議院公報の原稿のとりまとめ、委員室管理、委員会に関する開会放送、傍聴券発行及び撮影録音許可手続等の業務に従事。複数の委員会が開会される日は、業務を同時並行で進める必要があり、カウンターに手続待ちの列ができることも。初めのうちは焦ってミスをしてしまうことも多く、先輩職員に何度も助けられた。

管理部厚生課

共済本部係で、共済組合全体の出納事務、支部の経理書類の確認、事業計画の作成及び決算等の業務に従事。これまでの仕事と打って変わって、書類作成や数字の確認がメイン。特に簿記を用いた出納事務に苦戦するも、先輩職員に一から教えていただき、少しずつ理解できるように。勉強の成果を試すべく、上司と一緒に日商簿記検定3級を受験したのも良い思い出（お互い無事に合格）。

庶務部人事課

入局10年目、庶務部人事課へ異動。審査係

で職員の諸手当（扶養・住居・通勤・期末勤勉・超過勤務等）の支給・認定業務を担当。手当は職員の生活にも直結するため、日々緊張感をもって業務を行う。また、職員からの問合せも多く、センシティブな内容を含むこともあることから、相手に対して誠実に、真摯に向き合うことを心掛けた。再度、審査係に配属された令和5年には、鉄道各社の運賃改定により、全職員の通勤手当の額を改定。膨大な作業量に、途中「運賃改定ハイ」になりながらも、チーム一丸となってやり遂げたときの達成感はひとしお。

出向（人事院）

国家公務員の災害補償制度を所管する職員福祉局補償課に配属。制度担当として、規則・通知等の改正、各省からの事例照会対応のほか、自らが講師となって実務担当者向け研修を実施するなど、不慣れな業務に試行錯誤の日々。心が折れそうになることもあったが、新たな出会いや学びに恵まれたこの2年間の経験は、その後の職業人生における大きな財産となった。

調査局（総務調査室、内閣調査室）

総務調査室では、地方税制、地方公務員制度などの分野を担当。これまで触れたことのない分野に戸惑う私に最初に与えられた任務は、調査局が年に1回発行する「RESEARCH BUREAU論究」に掲載する論文の執筆。テーマは「ふるさと納税」。様々な文献や関連資料を読み漁り、先輩調査員に指導を受けながら1

枚1枚原稿を執筆。大変な作業ではあったが、学ぶ楽しさや文章を書く面白さも実感。完成した冊子を手にした瞬間の喜びは今でも忘れられない。

現在所属する内閣調査室では、国家公務員制度や個人情報保護などの分野を担当。法案参考資料の作成や調査依頼対応など、調査員としてまだまだ勉強の日々だが、少しずつ自分の知識やこれまでの経験を生かせる場面が増えてきていることに嬉しさとやりがいを感じている。

受験生へのメッセージ

私の入局当時は、一般職（高卒程度）採用者は、定型業務が多く、仕事の範囲も限定されていたように思います。しかし、昨今は、様々な職種への配置や行政への出向など、採用種別の垣根を越えてチャレンジできる環境が整えられ、私自身もキャリアパスにあるとおり、色々な経験を積む機会をいただいています。

衆議院事務局の仕事は本当に多種多様です。2~3年ごとの異動は、学び直しなど大変なこともあります。いくつかになっても新しい分野に携われるワクワク感を味わうことができるのは、衆議院事務局の大きな魅力だと思います。このワクワクを皆さんと一緒に体験しませんか？是非お待ちしております。